



新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、
オンライン読書会を開催しています。

★ テキスト・テーマ

・「フェミニズムがひらいた道」 上野千鶴子著

NHK books 2022.5月刊

★ 参加者 : 8名 (女4名、男性4名)



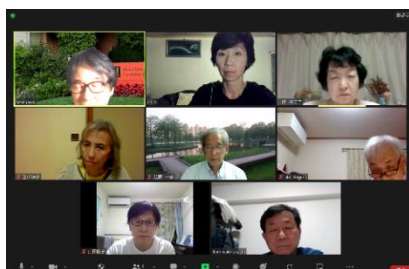
★ 参加者の感想

今回のテーマは、長谷川先生の「米国のフェミニズムと家族カウンセリングは、絡み合っていてやってきたところがあるとずっと感じてきた」ということで、資料は上野千鶴子さんが書かれた「フェミニズムがひらいた道」。この本は主として日本のフェミニズムの流れを、事例を交えわかり易く書かれています。その一章に50年前のウーマン・リブの活動チラシの「便所からの解放」という言葉がありました。「便所」って何かと思ったら、男性の性欲処理器=女性の別名とのこと。女を生殖向けの女(妻・母)と快楽向けの女(娼婦)に分断し、支配していることに対して「女はその両方を兼ね備えた存在」と主張したのが、活動の始まりだったのです。正直、この「便所」という言葉はショックでした。たった50年前の事・・・ということにも。

現在は女性の参政権、教育、職業の機会均等は当たり前になっています。参加メンバーの方が就職した頃は建物内に女性トイレがなかったとのこと。私の子育て中には、外のトイレにはベビーチェアが設置されていなく、乳飲み子を連れての外出先では、私はトイレに行けませんでした。バギーも折りたたまないで乗り物に乗せてくれませんでした。そんな女性たちの「？」や「怒り」を声にしてきてくれた先輩方がいたからこそ、日常の改革もできたのです。

上野さんは、「問題は女の側ではなく、社会の側にある」と、図と地を転換したことが女性学の最大の功績と言われ、また、フェミニズムは「痴漢は犯罪」と、やっても構わなかったことが、やってはならないことになり、社会的弱者に「わたしにも言わせて」を可能にする社会的な装置を作ってきたと言われます。彼女は東大の祝辞で「フェミニズムは決して女も男のように振る舞いたいとか、弱者が強者になりたいという思想ではありません。フェミニズムは弱者が弱者のまま尊重されることを求める思想です。フェミニズムは同じである権利を求めるものではなく、違っていても差別されない権利を求める思想

と実践なのです。」と述べられました。



男性は男性として、女性は女性として作られるという側面もあると思います。今回、「男性学」は本の紹介にとどまりましたが、「男性はきつい既製服を着せられている気がする」というメンバーの意見もありました。私も、男性はヘルプを言うのを恥じて思っているのかな?・・・と感ずることがあります。勉強会のメンバーの男性方は、男性とは・・・とよく語

ってくださいますが、今後、男性学を学びたいです。そして、男とか女とかではなく、できる人ができることをし、助け合える人間関係のあり方をめざしていきたいものです。

「女は違う生き物だ」と思っている男性と、「自分らしく生きたい」と思っている女性が、職場や家庭で一緒に過ごすというのは、「個人(私)の問題というより、社会(相手)の問題」「個人の問題ではなく家族の問題」ということになるのでしょう。

長谷川先生は「我々がすることは、一時的にでも家族の改革をすること」と言われます。夫が仕事で悩んでいる時、「あなたが悪いのではなく、会社の問題、社会の問題じゃないの?」と妻に言ってもらえたら、夫が妻を褒め、妻が夫を褒める環境の中で子供が育つと、どんなにか家庭が温かな場所になるでしょう。そんなあったかく、優しい家庭改革を・・・こんな長谷川先生の言葉を聞き、福祉、心理、教育、社会情勢などなど、いろんなところにアンテナを張り巡らせ、家庭改革の糧にしたいと、改めて感じた勉強会でした。

私は昨年の6月から勉強会に参加し、今日まで皆勤。参加するたびに刺激を受け、この勉強会に出会えてよかったと心から感謝しています。

(家族相談士 辻中洋子)

<オンライン読書会はいかがでしょう?>



阿佐ヶ谷の洒落たお店でのお茶会は、しばらくおあずけですが、
長谷川理事長のご講義が画面から溢れてくるオンタイムのセミナーもまた必見!
夫婦生活につまずいている方はもちろん?円満な方やおひとさまのお知恵も拝借しながら、おんなとおとこが添い遂げる工夫を、家族カウンセリングの視点から学び合いましょう。協会員なら、どなたでもこのオンライン読書会にご参加できます。

★次回は第39回 6月26日(日) 20:30 ZOOM開催です。

全国大会開催当日です。新しい参加者大募集!!

理事長ご提案のテーマで話し合います。会員の皆さま、奮ってご参加くださいね!